

# コロナ禍の令和2年度 入学式・卒業式

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により世界中で行動が制限されましたが、清水学園でも最大の行事、入学式と卒業式を細心の注意のもと、厳粛に執り行いました。



振袖、長襦袢、袴とすべて自分で仕立てた衣装で巣立ちの日を迎えた卒業生



2ヶ月遅れでしたが、無事行われた令和2年度の入学式



右から着装主任講師寺屋美代子先生、正教授川上恵津子さん、学士三島美穂さん、竹内芳子先生

きもの着装正教授の資格授与も行われました。



式典終了後に、マスクを一時的に外して全員で記念撮影

例年なら桜の季節に行われる入学式と進級式。令和2年は延期して6月1日、紫陽花の季節に行いました。感染防止のため、受付で体温を計測し、各階に消毒液や除菌スプレーを設置し、全員マスク着用、教職員もマスクにフェイスシールド着用と、これまでにならぬ状況下でのスタートでしたが、学園の主役である生徒が揃って活気を取り戻し、当たり前前に学習できることに感謝の思いを抱く一日となりました。入学者には、清水とき学園長がデザインされた、ときに流水模様の浴衣が贈られ、和裁の授業でさっそく仕立てられました。

令和2年度の卒業式は、出席者を限定して3月20日に挙行されました。規定の過程を終了した卒業生たちは、自ら仕立てたきものや袴を身に付けて式に臨みました。また当日は、専門課程および別科の各種資格の認定式、きもの着装学士および着装の最高学位であるきもの着装正教授の資格授与も行われました。



自作の浴衣や着物を着た出演者たちによる記念写真

1年生は入学式に授与された「とき浴衣」の反物を仕立て、帯結びを工夫して着装。2年生とブ口科は自分で染めた浴衣や単衣のきものなどを着用して出演しました。「自分で縫ったきものを自分で着て確かめる」という清水とき学園長の教えを体現するショー形式の学びの場でもあり、生徒たちは楽しみながらも、着装や帯結び、身のこなし、すべてを真剣に取り組んでショーを盛り立て、教職員たちに成長した姿を見せてくれました。

「自作自演」の浴衣ショー  
 「七夕浴衣ショー」として例年本校で親しまれているショー。コロナ禍の今年は1ヶ月遅れの8月7日に無観客で開催しました。

「冬期きもの大学」で充実の一日  
 一流の講師による講義が魅力の「きもの大学」。今年度は本校生徒および学園関係者を中心に限定した人数で開催されました。

令和2年11月29日、清水学園8階講堂で、本校の人気講座「冬期きもの大学」が行われました。午前は本校着装主任講師の寺屋美代子先生と河内美津子先生による帯結びの実演講義。午後は東京国立博物館の工芸室長で文学博士の小山弓弦葉先生を招聘し、総責任者として務められた「特別展『きもの』」に見る小袖ときもの歴史」と題した講義を行っていただきました。



女性用帯結び2点と男性の袴の着装について解説



本校が会場となった和裁検定の実技試験に、集中して取り組む受験生たち

和裁に関する仕事を志す者にとって必須の資格。清水とき先生は第1回から検定委員を務めています。例年は9月に行われますが、今年度は11月21、22日にかけて実施されました。

「きもの文化検定試験」  
 「和裁検定」に挑戦！  
 各種検定試験は、学びを確かなものにし、卒業後に役立つとして積極的に参加を求めています。今年も多く多くの生徒が挑戦して、優秀な成績を収めました。

令和2年11月1日、全国一斉に一般社団法人全日本きもの振興会主催の「きもの文化検定」が行われました。第1回から参加している本校は、学校受験という形式で15回目の検定5級から1級にチャレンジしました。

「和裁検定」は東京商工会議所が主催する検定で、和裁に関わる仕事を志す者にとって必須の資格。清水とき先生は第1回から検定委員を務めています。例年は9月に行われますが、今年度は11月21、22日にかけて実施されました。

針供養&桃の節句  
 毎年恒例の針供養を、今年はコロナ禍により約1ヶ月遅れて桃の節句と併せて行いました。

学校行事の開催がままならない中、日常使っている針に感謝する行事「針供養」は、本校にとって大事な取り組みです。雛人形を飾った「きもの芸術館」での講義の後、5階教室で針供養を行いました。最後に清水とき学園長から差し入れのお弁当と雛あられをいただき、季節の風趣を味わいました。



折れたり曲がったりした針に感謝をこめて、やわらかい豆腐に刺して供養



桃の節句(上巳の節句)と雛人形について学芸員横手里望講師が説明